


授業日時/教科・単元 1/29 /社会科(地理的分野)ヨーロッパ州

授業者 柴田 康弘 教材作成者 柴田 康弘

1. 児童生徒の学習の評価（授業前後の変化）

(1) 3名の児童生徒を取りあげて、同じ児童生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で児童生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

| 児童生徒 | 授業前 | 授業後 |
|------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 赤道より北 寒そう 流氷がある ホッキョクグマがいそう | アジア州や他の国に負けないように努力していて、工業では、航空機の生産はヨーロッパ州で(協同で※柴田補足)行っている。食べ物ではその地域にあった栽培を行い、工夫した食べ物を食べている  全ての視点から見ると、地域的特色を生かして暮らしているヨーロッパ州 ◎学習全体を主体的にリードした生徒。学習内容を踏まえた記述の後、具体性は薄いですが、エキスパート活動で行った、「キャッチコピー」の形式で、大きくヨーロッパ州を捉えて記述している。(「地域的特色を生かして」は大きすぎるくりではあるが。) |
| 2 | お城の家が多い セレブ 寒そう 上品な国 | EUに入っている国同士が、団結して新しい開発を進ませている、でも、その働く中には差がある。国同士とみれば、良い国ばかりだと思う。が、その中身はイマイチ。 ◎“たとえ”作成など、進んで取り組んだ生徒。ジグソー後の、EUの課題(負の側面)についての印象が大きく反映されたまとめとなっている。 |
| 3 | フランス、パリ、エッフェル塔、フィンランド、スウェーデン、ワイン、フランスパン・・・ ヨーロッパ州とは、オシャレなところ！ | 医薬品や情報通信などの先端技術が成長し、歴史を守ってきていて、EUのおかげで人々の暮らしを豊かなものにしたが、域内格差が課題のヨーロッパ州。便利で豊かだが、課題もある。 ◎通常、発言はほとんどない生徒だが、ジグソー活動でヨーロッパ州を「ふなっしー」にたとえるアイデアを披露し、積極的に関わった。まとめ解答の要素としては、ほぼ全ての内容を満たしている。 |

(2) 児童生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に児童生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

「まるで〇〇のようなヨーロッパ州」の形式で、“たとえ”る活動には、よく取り組めた。エキスパート全要素を含みこむためには、どんな“たとえ”を準備すれば良いか、苦しみながらも考えようとする様子が見られた。結果的に、どのグループからも違う“たとえ”

が出てきたが、いずれもしっかりとした理由付けがなされており、概ねこちらの満足する回答を得られた。今後は、それらをいかに他者(他グループの生徒)に「納得してもらえるか」、という視点からもクロストーク活動を展開したい。そのステップを踏むことで、より認識が深まるのではないかと考える。

2. 児童生徒の学習の評価（学習の様子）

児童生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

エキスパート活動における「○○○なヨーロッパ州」というコピーづくりと、ジグソー活動における「ヨーロッパ州はまるで○○のようだ」というメタファづくりが、似たような活動であったため、一部の生徒にとっては、区別の付かないものになってしまった。ただ、それもグループ内で修正できていたので、最終のまとめには到達できた。

「知識を構成する」という活動を、“メタファ”を通して行うことで、生徒自身もわかりやすく実行できたのではないか。これまで自身の協調学習実践での反省であった、エキスパート内容をただ単につなぎ合わせて、一つの理論を説明する、と言う活動よりも、教師・生徒ともに学習の手応えを得られた。

3. 授業の改善点

児童生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について今回の授業の改善点を挙げて下さい。

(1) 授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）
教科書中心の授業内容と授業設計。汎用可能である。

既有知識については、ほぼ全ての生徒が一面的でステレオタイプな知識、見方しか保持していなかったものの、一連の学習を通じて、多面的な見方が形成された。

キャッチコピー作成→たとえ(メタファ)作成、という流れが、わかりにくかった。ワークシート、指示の工夫・改善が必要。

(2) 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）

エキスパート活動の時間が少し少なかったので、宿題・課題として、教科書を活用した事前の取り組みを行わせた。

資料活用能力育成の観点からは、ワークシート記入の際に教科書の図表を見るだけでなく、やはりプリント内に資料を配置した方が良いのかもしれない。

(3) その他（授業中の支援、授業の進め方など）

「たとえ」をどのように行うのか、学習のゴールを明確に示すためにも、事前の具体例の提示が必須である。

評価の工夫として以下を試みた。

ペーパーテストで、「A君は『ヨーロッパ州はまるでルービックキューブのようだ』と例えています。具体的には、ヨーロッパ州のどのような部分をルービックキューブのどのようなところにたとえようとしたのでしょうか？」のように問うことで、単純な活動の想起(暗記再生)にとどまらず、ヨーロッパ州の地誌内容理解を問う問題として実施可能と考える。(2月下旬の期末テストで実施)